

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900554		
法人名	株式会社ハートコーポレーション		
事業所名	グループホーム西宮		
所在地	西宮市薬師町5-50		
自己評価作成日	令和4年12月23日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和5年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム西宮では、以前は、年2回マイクロバスをチャーターして行楽がありました。家族様ともお出かけすることができ、楽しい時間を過ごすことができていました。現在は、コロナ感染症もあり、行楽は自粛をしています。散歩や、買い物へは、行くことが出来ていますが、長時間では無い為、楽しさは一瞬で終わってしまいます。季節の行事は施設内で各階の職員が規模は地味に、でも盛大に盛り上げて行っています。施設内の壁画や様々な折り紙や、塗り絵は、利用者様の自慢の作品です。運営推進会議や、施設見学のお来客にも大変好評と自負しています。誕生日パーティーでは、職員お手製のバースデーケーキで、お祝いを行い楽しいひと時を過ごして頂いています。また、定期的にお写真を家族様に送ることで、施設内での利用者様の様子を少しでも感じて頂くように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは門戸厄神の静かな住宅地にあり、緑に囲まれた場所に立地している。利用者は静かで落ち着いた生活を送られている。コロナ禍で色々と制限が行われている中、室内の飾り付けや環境整備や(加湿器の対応・空気の入替え)誕生日を希望により楽しい時間の過ごし方等にし、家族へ写真を送り元気な姿を見て頂いて喜ばれている。8月に発生したコロナ感染で対策もより強化し、独自の理念「毎日をたのしく」を実現し日々職員共々支援に当たっている。現在は全員回復し元気な生活を送っている。過去には色々な問題があったが、現在の管理者に代わり改善され、管理者と職員が一体となり前進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム西宮、独自の理念は職員が意識出来る様に毎月の会議で確認を行い心がけています。	会社の理念は「明るく・楽しい・家庭的な環境」でホーム独自の理念は「毎日を楽しく」とし玄関と3階廊下と職員の休憩室に掲示し、朝礼時に唱和し日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染症により地域住民の方とのコミュニケーションのイベントはなくなっている。近隣の散歩は少人数で行っている。	コロナ禍で外部との交流は中止の状況ですが、今年は展示されている御神輿は見物が出来る状況との事です。少しずつ改善の機会が見えてきており、楽しみにされているとの事です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の病院の地域連携室等を通じて他事業所と連携し入居相談の時なども含め事業所の支援の方法などを知って頂くように努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症の影響により、前年度は1度だけ対面会議を実施することができました。中止となった月の会議の報告は書面で情報共有を行い、委員から頂戴した意見を参考にサービス向上に努めている。	運営推進会議はコロナ禍で書面对応でしたが、11月より開催出来ており色々なご意見を頂き、運営に活用している。町内会長はまだ出席されていないが民生の方より情報を頂き、地域との交流が出来ている。	前年同様ですが町内会長が出席されていない。情報は民生の方より頂いているが、会長の情報も色々あると思いますし、地域の方への以来も多いと思いますので再度依頼して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から、西宮市の職員に確認を取りと法令遵守の確認を行いながら運営を実施しています。	ホームで8月にクラスターが発生し、市や保健所より指導を頂き、マスク・手袋・キット・酸素・SOP等を頂き全員回復し、日頃の交流のお陰と感謝されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に行っています。身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。当施設では玄関が緩やかな坂で危険な為、玄関の施錠はやむを得ないと言える。	身体拘束適正化委員会は管理者・社員・ケアマネにて構成し年4回開催され、職員とは毎月の会議にてされ十分に主旨を理解し日々の支援にあたっている。ただ玄関は交通面より施錠しているが外出要望があれば、職員が即対応している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや、勤務態度等、日頃から職員同士で注意し合うように心がけている。また、コミュニケーションをとり情報供給も行っている。	虐待防止委員会も身体拘束委員会と同様なメンバーで構成され年4回の講習会をしている。職員間で問題があればお互いに注意し合える関係が出来ている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内会議で研修を行っている。年2回実施する人事考課でも職員に確認を行っている。外部研修を参加した職員は、他の職員へ報告し興味を持ってもらっている。	現在成年後見制度利用者は5名いるが、講師は司法書士にして頂き年2回開催されよく理解されている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新型コロナウイルスの為、契約書類一式を事前にご自宅へ郵送で送付している。契約日には、重要事項説明書の補足説明を行い、ご理解と納得の上、契約していただいている。	入所時に重要事項を中心に家族・本人へ十分に説明し了解を得ている。看取りも対応しているが現在はいない。法令改正時や認知度改正時にも同様の説明をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日頃から会話の中で要望を引き出す努力をしている。ご家族様には、電話や、面会などの時に報告と要望を聞き運営に反映させている。	利用者・家族よりの要望事項は、訪問時や電話時に確認している。コロナ時には面会の件や、外出に関する事が多い。出来る限り、運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している社内会議では、職員から意見や提案を聞き、話し合いサービス向上に繋がるように反映させている。	毎月職員会議時に活発な意見をかわし、運営に反映させている。内容は勤務に関する事が多い。又管理者と職員ともよく話し合い、ケアカンファレンスを昨年度より設け意見反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を年2回実施、合わせて個人面談も行い、意識確認を行っている。勤務状況や貢献度により、処遇改善加算金の分配を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月行っている。新入職時は、管理者と新入職時研修を実施している。法人では、資格取得制度もっており取得制度を推奨している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の「法令遵守担当者会議」で意見交換と情報共有を行っている。そこで得た知識を自施設でも取り入れサービス向上を目指している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学から、ご本人様の様子やご家族様の困っていることなどをアセスメントし、利用前でもいつでも相談を聞き、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期の、ご家族様が最も不安に思われる思いを受け止め、質問があれば納得がいくように説明を行いどんなことでも相談ができる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望があった際、ご本人様とご家族様が何に、困っているかアセスメントし、適切なサービスが利用できるように繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や趣味の中から、今後でもできる事を職員と一緒にやることで関係づくりを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に施設での状況を報告し、健康状態や、生活の様子、ご本人様の思いを把握して頂き、ご家族様と共に歩んで行ける関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可を得たうえで、友人、知人の面会や電話のやり取りを行い、近況報告を積極的に行うように努めている。	コロナ禍で色々な制限があるが来訪に関しては人数の制限・時間の制限等にて面会は行われている。その他ラインのテレビ電話・電話の取り次ぎも行われ声の支援もおこなわれている。又外出に関してはホームの周りの散歩・車でのドライブもされている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性や、性格を把握し共同生活が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、いつでも相談支援できる関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望をできるだけ把握し、職員間で検討し、困難な場合でも、実現できるように一緒に考え利用者本位のケアができるように努めている。	思いの把握は家族の来訪時・職員の支援の会話や行動の中より把握し申し送りノートに記入され全員が把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様からの聞き取り以外に、必要があれば入所前の各サービス機関から聞き取りも行うようにし、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、日中、夜間の過ごし方の申し送りを行い、日勤、夜勤を通じて情報共有し、一人一人の利用者様の健康状態の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度はケアカンファレンスを行い、課題を取り上げ心身の状態、生活の様子をアセスメント後、検討した計画を作成している。ご本人様や、ご家族様にも確認を頂いている。	介護計画、ケアの見直し等、ケアカンファレンスについては、毎月初め(火か金)に、管理者、ケアマネ、職員が、出席して実施し、往診医による意見もカンファレンスの場で、情報共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや、介護記録を活用できるように努めている。新たな課題が上がれば、職員同士で共有し計画の見直しにいかし実践している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様や、ご家族様のその時の状況に応じて、買い物代行や通院等、ご家族様が対応できない事等必要な支援が円滑に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報は積極的に収集している。地域行事やイベントがあれば出かける事ができるように支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の意向により、かかりつけの病院の継続、新たに医療機関を受診の際は、往診医と連携して受診に繋げている。	入居前からのかかりつけ医継続受診は2名で、通院時は、家族が付き添っている。往診医は協力医療機関の医師により、毎日対応が可能で、急な発熱についても、安心できる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回の看護師の訪問があり、健康相談や、置き薬の管理を行っている。異常があれば往診医に相談し指示を頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室と連絡をとり、入退院がスムーズに行えるように努めている。また日頃から通院時も、様々な相談を行い良好な関係づくりを行っている。	日中居室で転倒手首骨折した事例があり、管理者が対応し、家族への連絡、1泊入院で手術を実施し退院後の対応など職員が連携し、スムーズに対応ができ、現在、順調に外来通院継続している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご利用者様、ご家族様の意向を確認し体調に変化があれば都度話し合い再確認をしている。事業所としても十分に説明をし納得して頂けるように努めている。また、方針は関係者と連携し情報共有を行っている。	現在看取り事例はないが、重度化に至った場合については、管理者、ケアマネ、職員が参加するケアカンファレンスで話し合い、利用者や、家族にも意向を聞いて情報共有し、施設内で出来るケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルや、急変時の細かなマニュアルを研修などでも共有し、見直しも定期的に行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練や、通報訓練を行っている。緊急時の避難経路確認や整備もしている。コロナ感染症のため、地域の避難訓練は行っていない。	避難訓練を、4月に実施。早朝2階台所より出火想定し、実際の避難経路を確認し、2階より利用者に歩いて階段を降りてもらい、水消火器による訓練を実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間計画でも、定期的に個人情報保護、プライバシー保護の研修を実施している。職員は意識し理解できるように努めている。	研修は、職員会議で企画し、7月個人情報10月プライバシー保護、について研修機関の動画での研修をし、で管理者にレポート提出して習熟度を確認している。対応については、職員同士で、お互い注意し合えるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から職員は利用者様が、自己決定ができる環境作りや、言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員は個人個人の趣味や生活のペースを把握するように努力している。居心地の良い住環境を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人のニーズを把握し、清潔を心がけ、季節や場所に適した衣類を選び、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様には、季節感のある食事を提供できるように努めている。おやつ作りでは、和気あいあいと話をしながら、参加いただきレクリエーションの一環として取り組んでいる。	利用者には、日頃から、テレビや雑誌を見ながら何が食べたいか聞き取りを行い、元気だった時に、どんなものを食べていたか話を共有している。食事の準備や片付けなどの作業に、10名程度の利用者が、役割をもって参加できている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えた献立を元に、楽しく安全にバランスが良く食事ができるように努めている。定期的な水分補給も行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人の状態に応じた援助と、必用に応じて介助も行っている。毎食後、口腔ケアを行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗による精神的悪影響を把握し個人に合わせたタイミングで声かけを行うように努めている。	立ち上がりや、大きな声を出されるなどの個々の動作パターンを把握して、「ここにトイレがあるから行っておきましょうか」という声かけをするとほぼ確実にトイレで排泄が出来るという成功例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、医療と連携し、必要に応じて排便コントロールを行っている。水分補給もこまめに行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴時には、体調を見なが、個人好みのペースで入浴を行って頂いている。	シャンプーやボディソープは施設で準備しているが、肌の弱い利用者には、個人で用意している人もある。ゆず湯は、食べてしまわれる利用者もあるので、入浴剤で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間共に、必要に応じていつでも休養できるように、声かけや誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者様の病歴や内服薬の情報を共有し理解している。体調の変化があれば医療と連携を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の個々の能力に応じた、役割や、趣味、嗜好品等で気分転換を図って頂けるように支援している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の自粛期間が解除となり、一人一人の希望にそって、散歩や買物などの外出を実施し支援している。	コロナ規制緩和時期には、要望の多い、近隣のスーパー等へ、買い物に出かけた。筋力の低下もあるので、車いすの準備をして、武庫川コスモス畑、甲山公園のもみじを見に出かけた。マスク着用、車内では、窓を開けて、建物内へ入る時は消毒等注意して実施できている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則ご家族様管理である。必要に応じて、外出先での飲食や買い物等が自由に行えるよう、立て替え後日請求を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様との手紙や、電話などの通信手段は、必要に応じて、何時でも実施できるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、レクリエーションなどでの創作物を飾り季節感を取り入れ、定期的な掃除で環境整備も行い居心地の良い場所づくりを行い提供している。	居室の掃除は職員が対応しているが、手すりの消毒は利用者で、手伝ってくれる人がある。創作物飾りは、一部は利用者と一緒に作成されており、作成場面を写真で残して、後日写真を飾り、楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人個人が落ちつく場所をつくり提供している。時々、模様替えを行い、気の合う利用者様同士で自由に過ごすことができる工夫もしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の部屋はなじみの使い慣れた家具を配置し、その人らしく安心して落ち着いて過ごせる空間を作っている。	入居時に家具の配置は家族と相談して決定している。生活していく中で、車いす対応が必要になる等、体調に変化があれば、家族と利用者に相談をし模様替えを行い、安全な動線確保をができるようにされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく、張り紙を利用し、環境整備を行い、出来るだけ自立した生活が安全に送れるように工夫している。		

基本情報

事業所番号	2870901556		
法人名	有限会社オアシス		
事業所名	グループホーム西宮		
所在地	西宮市薬師町5番50号 電話0798-69-1002		

【情報提供票より】 令和5月17日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	20	常勤 7名 非常勤 13 名	常勤換算名 9.5名

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建て1・2階部分		
------	--------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	管理費33,498円	
敷 金	150,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無し	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	257 円	昼食 410 円
	夕食	513 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

利用者の概要1月17日

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 87.1 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すこやかクリニック 松本歯科医院
---------	------------------

(様式2(1))

事業所名 グループホーム西宮

作成日 令和4年3月15日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で外部との交流は中止の状況ですが、今年は展示されている神輿は見物が出来る状況との事です。少しずつ改善の機会が見えてきており楽しみにしている。	以前のようにまではいかないが散歩の頻度をあげ下肢筋力低下を防いでいき、これからの地域のイベントがされれば参加をしていきたいと考えます。	民生委員の方にイベント情報をきいたり、ネットで調べたりして外への意識をもつようにしていきたいを増やしていきたい。	2か月
2					
3					
4					
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。